

カリキュラムポリシー

リハビリテーション学部では、学位授与にあたってディプロマポリシーに定められた内容を修得するために以下の方針でカリキュラムを編成している。

本学部のカリキュラムの特長は、履修科目の学修成果を評価し、その結果に応じてより高度なあるいは実践的な科目の履修が可能となるシステムを採用していることである。

これは一定の基礎的科目の単位認定を受けることによりはじめて専門的、応用的科目の履修ができる先修科目制度である。特に専門基礎科目と専門科目は認知領域の科目として、単位取得を学年ごとに実施している臨床実習履修のための先修条件としている。

また本学では演習や実習系科目および臨床実習に多くの時間を割いているが、そこでは学生の積極的な取り組みが求められる。これらの科目では自ら学ぶ姿勢が身につくように能動的学修法を積極的に取り入れ、医療専門職に必要な責任感、向上心そして倫理観など情意領域での学修効果をあげるよう努めている。

これら認知領域や情意領域学修の過程を通じて最終的に医療専門職の理学療法士及び作業療法士に必要な精神運動領域としての実践力修得を目指している。

このように、学修とその評価、それを踏まえてより高度な学修というステップを明確にし、自己の学修の筋道やレベルを容易に把握できるカリキュラムを以下のように提供している。

基本方針

1. 幅広い教養、豊かな人間性および高い倫理観を兼ね備えた人材育成を目指したカリキュラムとする
2. 初年度の基礎教育から専門教育への円滑なつながりを考慮したカリキュラムとする
3. 専門的知識、技術の修得に必要な基礎医学、臨床医学を配慮したカリキュラムとする
4. 医療専門職に求められる最新の知識、技術を修得し、実践力を育成するためのカリキュラムとする
5. 社会のニーズに対応した保健・医療・福祉を推進するためのカリキュラムとする。
6. 地域社会だけでなくグローバル社会においても活躍することのできるコミュニケーション能力を涵養するためのカリキュラムとする。

本学部のカリキュラムは一般教育科目として『人文・社会科学系』、『自然科学系』、『保健』、『外国語』、専門科目系として『専門基礎科目』と『専門科目』に区分している。『専門科目』はさらに【基礎理学療法学・基礎作業療法学】、【理学療法評価学・作業療法評価学】、【理学療法治療学・作業療法治療学】、【地域理学療法学・地域作業療法学】、【臨床実習】に区分している。

1. 一般教育科目

一般教育科目は『人文・社会科学系』、『自然科学系』、『保健』、『外国語』の分野に区分し、1年次を中心に医療専門職にふさわしい幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観を涵養できるような科目を配置している。

『人文・社会科学系』では、大学教育を進めるうえで欠くことの出来ない理解力や表現力を養うための科目として「国語表現法」、「文章表現法」、「論文読解法」、「論文作成法」などを必修科目としている。またリハビリテーション専門職として対人関係の円滑な確立を図るために必要な科目として「心理学」、「コミュニケーション論」、「人間関係学」、「接遇技術演習」などの科目を必修科目としている。さらに医療施設や福祉施設といった特別な環境下において人間関係を深めるために有用であろうと思われる科目として「文学」、「教育学」、「笑い学」、「アクティビティー論」などを選択科目として開講している。

『自然科学系』では、専門科目を深く理解し、科学的根拠に基づいた医療を行うために必要な基礎科目として「化学」、「数学」、「物理」、「生物学」、「生活科学」を配置している。また統計学的手法を理解するために「統計学基礎」、「医療統計学」、「情報リテラシー入門」、「情報科学」を配置している。

『保健』では、疾病により運動量が減少することによる生活不活発病などの理解を容易にするために、健康と運動に関する科学的な知識を身につけることを目的にした「健康科学入門」、さらに健康と運動・スポーツに関する基礎および応用的知識について高齢者や障害者を対象にした科学的知識を学習するための「健康科学」を開講している。

『外国語』では、国際的感覚を有した医療人の育成のために日常英語としてネイティブの講師による英会話の科目「日常英語」、その他「基礎英語」、「英語」などを設け、また外来語が多く用いられるリハビリテーション医学の分野での論文の理解や記述力を高めることを目的にした「医学英語」を開講している。

2. 専門基礎科目

『専門基礎科目』は、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と傷害の成り立ちおよび回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念に区分し、高度な専門性を備え、優れた知識・技術を修得するために必要な基礎的科目を配置している。

人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解するための科目群として「解剖学Ⅰ、Ⅱ」、「機能解剖学Ⅰ、Ⅱ」、さらに実習として「人体解剖学」、「生理学」、「生理学実習」、「運動学」、「運動学実習」そして「臨床運動学」、「人間発達学」、「発達心理学」、「臨床心理学」を配置している。

疾病および障害について、その予防と回復過程に関する知識を修得し、理解力、観察力、判断力を培うための科目群として「病理学」、「内科学」、「整形外科学」、「神経内科学」、「精神医学」、「臨床精神医学」、「リハビリテーション医学」、「小児科学」、「スポーツ医学」、「脳神経外科学」、「老年医学」、「医学概論」、「公衆衛生学」、「救急法」などを配置している。

国民の保健医療福祉の推進のためにリハビリテーション専門職が果たす役割、そして地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成することを目的とした科目群として「リハビリテーション概論」、「障害者福祉論」、「医療福祉関連法規」、「死生学」などを配置した。

3. 専門科目

『専門科目』は、【基礎理学療法学・基礎作業療法学】、【理学療法評価学・作業療法評価学】、【理学療法治療学・作業療法治療学】、【地域理学療法学・地域作業療法学】、【臨床実習】に区分している。

【基礎理学療法学・基礎作業療法学】は、理学療法や作業療法の枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法や作業療法を構築できる能力とともに、職業倫理を高める態度を養うことを目的にした科目群を配置している。

理学療法学専攻では、「理学療法概論」、「理学療法入門」、「理学療法管理学」、「理学療法研究論」、作業療法学専攻では「作業療法概論Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法入門」、「基礎作業学」、「基礎作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「集団活動演習」、「生活技術演習」、「社会活動演習」、「作業療法研究法」、「作業療法学演習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法管理学」がこれにあたる。

【理学療法評価学・作業療法評価学】では、理学療法や作業療法における評価の枠組みを理解し、心身機能と構造の評価に関する知識と技術を修得することを目的とした科目群を配置している。

理学療法学専攻では、「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「臨床理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ」、「運動発達障害評価学」、作業療法学専攻では「身体機能評価学」、「身体機能評価学実習」、「精神機能評価学」、「精神機能評価学実習」、「発達機能評価学実習」がこれにあたる。

【理学療法治療学・作業療法治療学】では、種々の障害の予防と治療に必要な知識と技術を修得することを目的とした科目群を配置している。

理学療法学専攻では、「運動療法学概論」、「運動器系運動療法学」、「運動器系運動療法学実習」、「神経系運動療法学」、「神経系運動療法学実習」、「内部障害系運動療法学」、「運動発達障害治療学」、「物理療法学」、「物理療法学実習」、「日常生活動作障害学」、「日常生活動作障害学実習」、「生活環境論」、「義肢装具学」、「義肢装具学実習」、「理学療法実習Ⅰ（運動器疾患分野）」、「理学療法実習Ⅱ（中枢神経疾患分野）」、「理学療法実習Ⅲ（内部障害疾患・生活支援分野）」、「理学療法総合演習（OSCE）」、「理学療法特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「スポーツリハビリテーション概論」、「スポーツリハビリテーション学」、「作業療法概論」、「基礎看護学概説」、「理学療法ゼミナール」、「卒業研究」、作業療法学専攻では「作業適用学」、「作業療法治療学総論」、「日常生活技術学」、「日常生活技術学実習、福祉用具論、福祉用具論実習、神経系障害治療学、神経系障害治療学実習」、「運動器系障害治療学」、「運動器系障害治療学実習」、「精神障害治療学」、「精神障害治療学実習」、「老年期障害治療学演習」、「発達障害治療学」、「発達障害治療学実習」、「作業療法義肢装具学」、「作業療法義肢装具学演習」、「職業リハビリテーション演習」、「理学療法概論」、「基礎看護学概説」、「物理療法学」、「スポーツリハビリテーション概論」、「作業療法学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」がこれにあたる。

【地域理学療法学・地域作業療法学】では、患者及び障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を修得し、問題解決能力を養うことを目的とした科目群を配置している。

理学療法学専攻では、「地域リハビリテーション原論」、「地域理学療法学」、「リハビリテーション工学」、「地域リハビリテーション研究」、「海外地域リハビリテーション実習」、

作業療法学専攻では、「地域リハビリテーション原論」、「地域作業療法学」、「リハビリテーション工学」、「地域リハビリテーション研究」、「海外地域リハビリテーション実習」がこれにあたる。

【臨床実習】では、社会的ニーズの多様化に臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。学内における臨床演習を行ったのちに各障害、各病期、各年齢層を偏りなく行う。

理学療法学専攻では、「基礎臨床実習」、「臨床評価実習」、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、

作業療法学専攻では、「臨地見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「臨床評価実習」、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」がこれにあたる。

学位取得要件として、理学療法学専攻では一般教育科目 27 単位、専門基礎科目 35 単位、専門科目 66 単位、合計 128 単位、作業療法学専攻では、一般教育科目 24 単位、専門基礎科目 36 単位、専門科目 68 単位、合計 128 単位の取得が必要である。